

七ヶ浜町長期総合計画

基本構想

はじめに

1．策定にあたって	3
2．計画の構成と期間	3
3．まちづくりの基本姿勢	4
4．まちづくりの主要課題	5

第1編 基本構想

第1章 心ゆたかなまちを目指して	7
(1) まちづくりの基本的な考え方	7
(2) 計画の視点 - 環境・教育・福祉の重視 -	8
(3) まちづくりの基本理念	9
第2章 うみ・ひと・まち 七ヶ浜	10
(1) 七ヶ浜の将来像	10
(2) 10年後の人口予想	16

はじめに

1. 策定にあたって

七ヶ浜町は遠いむかしから海とかかわりあいながら、その恵みを受けて発展してきました。いまに生きる私たちの使命は、先人たちが育んできたふるさとを大切に受け継ぎ、新しい未来を切りひらき、次代の子どもたちに伝えていくことにあります。

21世紀を迎えるいま、地球環境問題をはじめ、高度情報化、国際化、人口減少と少子・高齢化など、私たちを取り巻く課題は複雑化して、従来の価値観や方法だけでは解決できなくなり、新しい視点が求められるようになってきています。

一方、地域社会においては、地方分権への流れとともに、住民のニーズも多様化し、これからは住民自らの知恵と力で、新しい地域づくりを目指していくことが望まれています。

この総合計画は、21世紀へ歩み出す七ヶ浜町のあるべき姿に向けて、住民一人ひとりの知恵を結集し、住みよい地域社会をつくっていくために、その基本的な考え方、目標を示したものです。

2. 計画の構成と期間

この基本構想は、現在の七ヶ浜町が抱える課題を踏まえ、「まちづくりの基本姿勢」と未来のまちづくりの指針となる「基本理念」、「10年後の将来像」から構成しています。

また、「基本構想」に基づき、「基本計画」では、その施策の展開を示しています。

この計画の期間は平成13年度(2001年)を初年度とし、目標年次を平成22年度(2010年)とする10年間の計画です。

3. まちづくりの基本姿勢

七ヶ浜町が抱える課題の解決をはじめ、今後予想される様々な変化に柔軟に対応できる、新しいまちづくりが求められています。

「ひととひと」のつながりを保つために、地域の力を高める計画とします。

町内の各地域は、自然や歴史、伝統、文化、人材などそれぞれの貴重な地域資源を持っています。これらの資源を活用し、地域での様々な活動を通して、お互いの「顔」が見えるまちづくりを目指します。

町では、こうした地域資源を見直し、活用するための支援を行います。

「ひととまち（住民と行政）」のつながりを強めるため、住民と行政の協働により役割分担し、住民参加を進める計画とします。

町の活性化は、行政だけでなく、住民、各種団体、ボランティア、NPO*¹、民間企業などが各々の役割を認識し、パートナーシップ（協働）*²によって進めていくことが重要となってきます。このため、住民との意見交換の機会を設け、行政へのかかわりを深め、住民自ら参画できる行政を目指します。

特にボランティアやNPO活動は、環境、教育、福祉などあらゆる分野で重要な役割を期待されており、町では人材育成や組織づくりの支援、情報提供を積極的に進めます。

● **「まち(行政)」の信頼性を高めるため、行財政改革により、効率的な運営を目指します。**

町ではおおむね生活基盤や施設づくりなどが充実してきたと考えられます。今後は、人づくりのためのソフト施策や住民にとって利用しやすい施設運営を目指します。

さらに、情報公開により行政施策の透明性と行政への信頼性を高めるため、施策の結果などを住民に対して説明していくことが必要となってきます。今後は施策の優先順位や事業の評価を明確にししながら、より計画的で効率的な行財政運営に努めます。

● **「まちとまち(行政と行政)」が連携し、効率的な広域行政の推進を目指します。**

仙台都市圏*³東部ブロックの2市3町*⁴では、これまで、消防をはじめ、ゴミ処理、介護保険など、一つの市や町では対応が難しい分野に対し、連携して取り組んできました。

今後、ますます広がる日常生活圏と多様化する住民のニーズにこたえるため、関係市町村との連携を強め、効率的な行政運営に取り組んでいきます。

4. まちづくりの主要課題

*¹ 「NPO」 Non Profit Organization（民間非営利組織）。福祉や教育、環境、国際交流等、様々な分野で個人の自発的な活動を基盤に行われる組織や団体

*² 「パートナーシップ」 協力、提携、協力体制

*³ 「仙台都市圏」 仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村の5市8町1村の範囲をいう

*⁴ 「2市3町」 塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町

計画づくりにあたっては、住民の「まちづくりアンケート」や町内13地区での「住民懇談会」、有識者による「ビジョン*1懇談会」などの結果を踏まえ、8つの主な課題を浮き彫りにしました。

七ヶ浜らしい自然環境の保全

三方を海に囲まれた私たちの町には、豊かな自然環境が残っています。しかし、海岸部では松くい虫による被害がみられ、内陸部では雑木林や休耕地などで手入れ不足による荒廃が進んでいます。

また、町外からの土砂の搬入が深刻な問題になっており、景観の悪化や保水機能の低下、生物への悪影響も懸念されています。

今後、住民と行政が協力しあって自然環境を保全するための方法を検討し、自然と共生*2したまちをつくる必要があります。

生涯学習の充実

将来を担う子どもたちが健やかに育つために、人としての基本的な生活習慣を身につけた人づくりが教育の根本と考えます。幼児期や少年期をはじめ、それぞれの年齢に応じた教育や学ぶ機会を充実させていくことが求められています。

また、多様化する住民の余暇活動などにこたえ、生涯を通して学ぶことができるよう、生涯学習センターや国際村、アクアリーナなどを活用したソフト施策を展開させていく必要があります。

保健・医療・福祉サービスの向上

少子・高齢化や核家族化が進み、家庭だけでは対処しきれない課題が増えています。子どもを産み、育てることに喜びを感じ、安心して子育てできる環境づくりと、介護が必要になっても、地域の中で自立した生活を営める仕組みづくりが求められています。

また、だれもが心身ともに健康で豊かな暮らしを保てるよう、保健・医療体制の充実と、ボランティアやNPOの育成、活動を支援していくことが重要になってきます。

次代を支える産業の活性化

町内での就業機会は少なく、およそ7割の人が近隣市町で就業しています。今後も経済活動の低迷や経営の効率化により就業者の減少が予想され、町内での産業振興と就業機会の確保が一層求められてきます。

このため、一次産業では、消費者ニーズに対応した農業や漁業の展開と、販路先の開拓や高付加価値商品の開発をするなど、新たな需要の掘り起こしが求められてきます。

また、二次、三次産業については、高度情報化社会に応じた情報通信サービス業や高齢化社会に伴う福祉サービス業など、新たな就業機会を確保していくことが重要になってきます。

地域活動の活性化

*1 「ビジョン」 未来像。見通し

*2 「共生」 違う生物が緊密な結びつきを保ちながらいっしょに生活すること

町外での就業者が多くなったため、地域内での交流の機会や協力関係が徐々に少なくなり、地域活動の担い手不足が問題になっています。その結果、地域ぐるみでの教育や福祉に対する取り組みが弱まってきています。

住民一人ひとりが共通認識を持って、地域への愛着心をはぐくみ、新たな地域社会を築くことが課題になっています。

生活の利便性の確保

町内全域で、道路、下水道などの基盤整備が進められたことから、今後、管理運営のあり方が重要になってきます。

しかし、地区によっては生活道路が狭く、また幹線道路の歩道が未整備なところもあるため、交通安全や防災の面での問題となっています。町外への通勤・通学者からは朝夕の交通混雑の解消が求められ、高齢者などの交通弱者からは、交通の利便性の確保と改善が望まれています。

行政情報の提供と参加機会の拡大

住民の価値観の多様化や地方分権に伴い、住民の意向がより反映された行政運営が求められています。そのため、情報の公開や広報広聴活動を積極的に進めながら、住民参加の機会を増やしたまちづくりを行っていく必要があります。

効率的な行財政運営

今後は、福祉事業や下水道などの生活基盤、教育文化施設などの整備による維持経費の負担増が見込まれます。経済情勢の見通しでも税収の伸びが見込めないことから、財政は引き続き厳しいことが予想されます。

このため、施策の優先順位や事業の評価を明確にし、住民との役割分担や広域的な連携を強めるなど、より効率的な行財政運営が求められています。

第1編 基本構想

第1章 心ゆたかなまちを目指して

(1) まちづくりの基本的考え方

私たちの暮らしは、高度経済成長期を通して、所得とともに生活水準も飛躍的に向上しました。これまでの時代は、経済優先の社会だったといえます。

しかし、いまの日本人の生活は、物が豊かで便利になったにもかかわらず、豊かさの実感が伴わないともいわれています。家庭や地域などでも人と人の結びつきが薄れたため、様々な課題が生じており、私たちは「ものの豊かさ」から「こころの豊かさ」を重視するようになってきています。

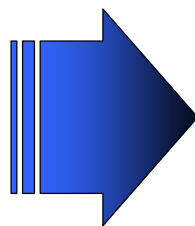
価値観が多様化し、一人ひとりが尊重される社会に変わりつつある今日、21世紀の七ヶ浜町においても、一人ひとりが自分らしい生き方を求めて、自由に目的や手段が選べる社会を築いていくことが求められています。

これからは、私たちを取り巻く様々な課題に対して、住民と行政との協働により、安心して、安全で充実した暮らしがおくれ、ゆとりある「心ゆたかなまち」をつくっていく必要があります。

時代の变化

これまでの社会

- ・高度成長経済
- ・人口増加傾向
- ・大量生産
- ・大量消費
- ・基盤整備・開発重視
- ・画一化・均質化
- ・中央集権
- ・行政主導



これからの社会

- ・安定成長経済
- ・人口減少傾向・少子高齢化
- ・多品種少量生産
- ・資源リサイクル
- ・既存施設の維持・活用
- ・多様化・個性化
- ・地方分権
- ・住民と行政による運営
- ・高度情報化

(2) 計画の視点

環境・教育・福祉の重視

この計画では、人づくりを通して「心ゆたかなまち」を実現するために、様々な社会情勢や町の課題を踏まえ、「環境」、「教育」、「福祉」の3つの基本的視点から、新しい時代の七ヶ浜町のまちづくりを考えていきます。

「環境」

私たちの住む時代は、いま、地球規模での環境問題が深刻になり、私たちの暮らしにも影響が出てきています。豊かな環境を次代の子どもたちに引き継ぐために、自然と人間との共生を考える必要があります。

環境への積極的な取り組みは、人々の健康につながり、人を育て、美しい七ヶ浜をつくることにもつながります。

七ヶ浜町では、恵まれた自然環境を保全するとともに、循環型社会を目指し、住民一人ひとりがリサイクル*¹や省資源・省エネルギーに努め、環境にやさしいまちづくりを進めます。

「教育」

活力にあふれる豊かな地域社会は、人を思いやり、いつくしみ、いたわりあう人づくりが、教育の根本と考えます。このため、今後は家庭、地域、学校、行政が一体となった教育が大切になってきます。

また、生涯を通して、自分らしく、一人ひとりが様々な分野で能力を伸ばせるように学びの場が必要になります。

七ヶ浜町では、様々な人や地域との交流を通して視野を広げ、世界に羽ばたく人づくりを進めます。

「福祉」

生涯にわたって、だれもが心身ともに健康な生活をおくり、いきいきと暮らせる地域社会をつくることが求められています。

七ヶ浜町では、住民一人ひとりが健康や福祉について考え、地域で支援し、ともに支えあいながら、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

この基本的視点をもとに、次の基本理念を掲げました。

*1 「リサイクル」 資源を無駄にしないよう廃物の再生利用をすること

(3) まちづくりの基本理念

基本理念

心ゆたかなまち

未来への財産として愛すべき地域社会をみんなで作っていく七ヶ浜町のまちづくり。それは、現在の利益や便利さだけを追求するのではなく、未来の地球を考える広い視野と未来の子どもたちを思う長期的な将来像を描き、今できること、やるべきことを一つひとつ実現していくこと

【自然との共生】

生命の源『海』に囲まれた七ヶ浜の豊かな自然、先人たちから受け継いだこの財産を未来へと継承させるために、自然とのふれあいを深めて、その偉大さ、大切さを知り、自然と共生していこうとする心を育み、地球規模で環境問題を考え、行動するまちを目指します。

【創造性豊かな人間の育成】

日々の生活の中に喜びを発見できるみずみずしい感性と、自分の考えを明確に表現できる創造性豊かな心をはぐくみ、また、お互いの個性と自主性を尊重しあいながら、活発な交流が行われるまちを目指します。

【ゆとりある地域社会づくり】

住民と行政のパートナーシップを強め、健やかな心身の育成と「七ヶ浜らしさ」の創造を推進します。地域ぐるみの福祉や教育を充実させ、豊かさを実感できる、いきいきとしたゆとりある地域社会を目指します。

第2章 うみ・ひと・まち 七ヶ浜

(1)10年後の視点で描いた七ヶ浜の将来像

「心ゆたかなまち」を実現するため、基本理念で掲げた「自然との共生」、「創造性豊かな人間の育成」、「ゆとりある地域社会づくり」に基づき、10年後の理想の七ヶ浜町を5つの分野別に描きました。

この将来像は、10年後の視点で表現されており、七ヶ浜町のまちづくりは住民と行政とが力を合わせることにより、はじめて可能となるものです。

①自然とともに

まちの美しい海浜の風景や緑豊かな自然環境を大切にしながら、自然と人間が仲良く共生する「七ヶ浜らしいよりよい自然環境づくり」が進められています。

・みんなで進める景観づくり

町全体で自然をまもる活動が浸透し、海岸や田園などの保全が進められています。また、市街地でも、景観に配慮した取り組みが行われています。

海岸部の地域では、海をはじめ、松などの緑の保全や植栽活動、環境美化の活動が行われ、特別名勝「松島」にふさわしい風情のある海浜や漁村風景が保たれています。多聞山や君ヶ岡公園、鼻節神社などの景勝地では、住民により積極的に清掃や植栽などの手入れがなされ、多くの来訪者に親しまれています。

市街地では、景観づくりや保全の話し合いが行われ、道沿いの花壇づくりや街路樹の維持管理など、四季の風景が味わえる豊かな景観づくりが進められています。

・水辺に親しむ環境づくり

私たちの町で、水際はとても大切な空間です。海辺や沼辺では、動植物が生息しやすい環境づくりが進められています。水に親しみ、野鳥や昆虫観察のできる自然環境を利用して、子どもたちの環境学習や課外活動、世代間交流も積極的に進められています。

・心をいやす環境づくり

住民に親しまれている海辺や沼などの自然資源。鼻節神社、大木囲貝塚などの歴史資源。さらには野外活動センターなど既存の施設をサイクリングやウォーキングコースで結び、日常的に親しめる余暇環境づくりが進められています。

②ひとにやさしい

一人ひとりが健康で暮らしにゆとりを感じ、お互いをいたわりあう「人にやさしいまちづくり」が進められています。

・安心して暮らせる福祉環境づくり

少子高齢化が進み、福祉への関心や理解が高まり、地域住民がお互いに助けあい、いたわりあっています。病気や障害により、介助や介護が必要となっても、住み慣れた場所でだれもが生きがいを持って、安心して暮らせる環境がつくられています。

・子育て支援環境の充実

核家族化が進み、孤立しがちになる子育てに対して、相談や地域での仲間づくりなどの支援が充実しています。また、共働き家庭にも託児体制が充実しており、親は安心して就業でき、子育てと両立させています。

・健康づくり活動

自分の健康に気づかい、日ごろからアクアリーナなどを利用して健康づくりに取り組む人が増えています。健康診査体制が充実し、住民一人ひとりの診断結果にあわせて、運動や食生活などに対する適切な保健指導がきめ細やかに行われています。

・医療体制の充実

だれもが最適な医療サービスを受けられるように、医療機関への利便性の向上が図られるとともに、情報通信技術を活用した医療システム化が進められています。また、いざという時に備えて、夜間、休日診療体制や救急医療体制も充実しています。

③自分らしく

人々が豊かな心を持ち、自分らしい生き方が選択できる「ゆとりある環境づくり」が進められています。

・生きがいのある人生をおくる生涯学習

一人ひとりが心の豊かさや生きがいのある暮らしを求め、多様な学習意欲にこたえた生涯学習の機会を充実させています。このような取り組みは、個人の素質や能力を伸ばすばかりでなく、交流の機会や地域社会の活性化、お年寄りの社会参加にもつながっています。

・創造と感性をはぐくむ芸術・文化活動

国際村などで、優れた芸術や文化活動に触れることによって、住民の関心が高まり、自主企画や創作活動も活発に行われています。これらの成果は国際村などで発表されたり、インターネットのホームページ*1で広く紹介されています。

・世界的な視野をはぐくむ国際・国内交流の推進

住民による草の根の交流活動も活発に進められています。国際村での交流事業や姉妹都市プリマスとの交流をはじめ、児童・生徒が世界中の人たちとインターネットで交信し、国際交流の担い手となっています。また、七ヶ浜町の伝統・文化にも着目し、海外でも自分の住む町のことを伝えられるような活動も積極的に行っています。

国内においても、スポーツや文化活動など、様々な分野で交流が活発に行われています。

・まもり伝えていく文化遺産

町内の貴重な財産である歴史的文化遺産を大切にまもり、活用しながら継承しています。次代を担う子どもたちには、歴史資料館を中心に、地域の歴史資源を見直すための体験学習を通して、先人が築いてきたふるさと七ヶ浜を伝えていきます。

・豊かな心を育む教育環境の充実

豊かな人間性をもった子どもたちを育てるために、家庭、地域、学校、行政が連携して、ゆとりある教育に取り組んでいます。世代間の交流や自然、社会に関する体験学習などの機会を通して、自ら学び、自ら考える力を養い、社会のルールや人への思いやりの心を学んでいます。幼児や児童・生徒の心身の発達に応じた食育*2、徳育、知育、体育がバランスよく取り入れられています。

*1「ホームページ」 インターネット（コンピューター通信網）に接続した利用者が、情報を検索するための画面

*2「食育」 子どもたちが食べ物を自分で選び、料理し、味わい、自分の健康を自分でまもる能力を育てるための教育

・健康な心とからだづくり

こころとからだの健康のため、学校や町内の施設などを利用してスポーツ・レクリエーション活動を楽しむ人々が増えています。このため、多様なニーズにこたえた講習会などの機会も増えています。競技スポーツでは指導者の育成や組織づくりにも力を入れています。

④みんなでつくる

住民一人ひとりが参加して、協調しながら活発な交流が行われる「元気のいい地域づくり」が進められています。

・農業の新たな展開

新鮮で安全な農作物など、地元の消費者ニーズにもこたえた生産と販売をしています。米と園芸、野菜などを組み合わせた複合経営を進めています。また、次代を担う後継者が安定した農業経営を行えるよう、農地を集積し、効率的な農業に取り組んでいます。さらに農地を自然の一部として保全に努め、安全な食づくりにも積極的に取り組んでいます。

・魅力ある水産業の振興

七ヶ浜町漁業協同組合を中心に、資源管理型漁業^{*1}が進められ、これまで以上に採る漁業から育てる漁業へと転換しています。これにより漁獲が安定し、地元での販売や販路の開拓にも力が注がれています。海苔養殖漁業では、生産者間で協業化が進められ、安定した経営が図られています。

・商工業の活性化

商工会をはじめ、JA、漁協、行政が連携して、水産物や農作物の販路の開拓やインターネット販売を進めることで、七ヶ浜ブランド^{*2}が消費者の間に浸透してきています。消費者ニーズにこたえた“市”の開催や新商品の開発にも積極的に取り組み、商工業の活性化が図られています。

また、町内の豊かな自然資源や歴史資源などをつないだ観光ルートづくりにも取り組み、町の人たちの温かいもてなしが、七ヶ浜の魅力を一層高めています。

一方では、町内でも新しいビジネスが育ち、情報機能を活用した業務支援サービス業など、在宅のまま就業する人も増えています。

^{*1} 「資源管理型漁業」 今ある資源を枯渇させないために、漁業者の合意によって禁漁期や禁漁区の設定、漁獲の体長制限等をして、持続的に漁ができるようにすること

^{*2} 「ブランド」 銘柄。商標

・コミュニティ活動の推進

地域では世代を越えて、教育や福祉、環境への取り組みについて積極的に話し合われています。地域での活動が進むよう、ボランティア活動やNPOの組織づくり、リーダーの育成、情報の提供などの支援が行われています。

・男女がともに助けあう地域社会づくり

男女がお互いを尊重しあい、パートナーシップのもとに様々な活動がいきいきと行われています。女性の社会参画もめざましく、あらゆる分野で男女平等の考え方が浸透しています。家庭や地域でも、役割を分担しながら、ともに支えあう心豊かで個性あふれるまちづくりが進められています。

・住民・行政の役割分担の推進

住民のニーズと価値観の多様化に伴い、行政では情報公開や広報広聴の機会を充実させ、住民の意見を反映した計画づくりを行っています。また、住民も自ら行政に参加する意識が高まり、住民と行政の役割分担も進められています。

・健全な行政運営の推進

行政施策を効率的に進めるために、行政の各分野の横のつながりや情報管理体制の充実が図られています。また、地方分権^{*1}に対応した行政運営を行うため、行政の組織改革や意識の改革が進められています。施策は、だれにでもわかる明確な方法で優先度を示し、達成度を評価して、計画的な行財政運営が進められています。

・広域的連携によるくらしやすいまちづくり

地域の特性や個性を踏まえた市町村間での広域ビジョンに基づき、施設の相互利用など、周辺市町村と連携した効率的な行政運営が一層進められています。様々な分野で住民がより広域的に、質の高い行政サービスが受けられるようになっています。

^{*1} 「地方分権」 これまで、国に集中していた権限を住民に一番身近な行政機関に移すこと

⑤安心でこちよい

安全、安心で豊かにだれもが住み心地のよい「愛着を感じるまちづくり」が進められています。

・快適な住環境づくり

地域の実状にあったゆとりと潤いのある生活空間をつくるため、住民との話し合いにより住環境の改善、整備が進められています。人にやさしいバリアフリー^{*1}の家づくりなどを進めながら、自然と調和した町並みも整えられています。

・省資源化の推進と衛生環境づくり

住民の環境への意識が高まり、一人ひとりが家庭から出たゴミの減量化、資源化、再利用に積極的に取り組んでいます。ゴミの持ち帰り運動などの環境をまもる活動で、七ヶ浜の海浜や道路からのゴミが減り、快適で美しいまちづくりが進められています。

また、海や沼の汚染防止のために、排水処理による水質浄化にも努め、上下水道の維持や管理、改修も計画的に進められています。

・円滑な移動ができる交通網の整備

これまでの車のための道路から、人にやさしく歩きやすい道づくりを進めています。町の内外を結ぶ幹線道路では、歩道や案内標識の整備が進み、地域の道路では住民の協力により、狭あい道路も改善されています。また、医療施設や公共施設などが利用しやすいように住民バスも運行されています。

・生命と財産をまもる防災・防犯体制の充実

地震や津波などの災害に備えた地域情報伝達システムやライフライン^{*2}の確保、避難路の整備など、各地域に応じた防災体制が整えられています。地域での啓発活動を通じ、住民一人ひとりの防災、防犯意識も高められています。

・地域情報ネットワークの確立

いつでも必要な情報が得られる社会となり、行政、環境、保健、医療、福祉、教育、芸術・文化などの地域情報についても、住民と行政との間にネットワークが確立されています。

*1 「バリアフリー」 お年寄り等が暮らしやすいように、住宅や道路、乗り物の段差をなくすこと

*2 「ライフライン」 水道、電気、ガス等の供給施設

(2)10年後の人口予想

これまでの動向や社会・経済情勢の変化などから、将来における本町の人口は次のようになると見込まれます。

人口

平成22年 人口：23,000人 世帯数：7,300世帯

本町の人口は順調に増加し続けており、平成22年には23,000人（平成7年比：約2,300人増）になると見込まれます。

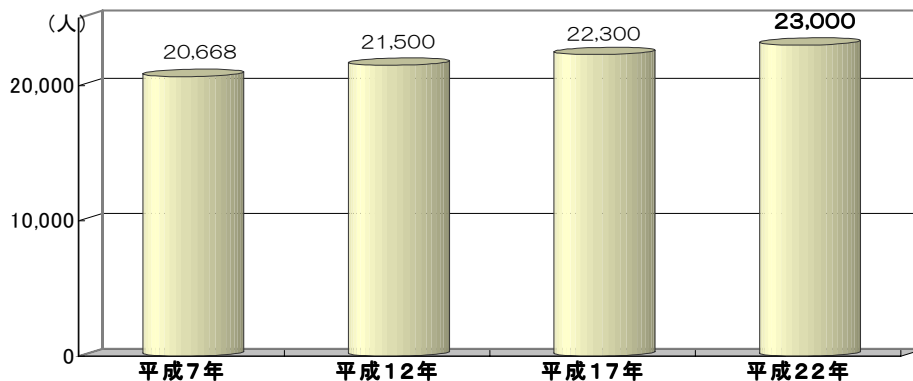
年齢階層別にみると、14歳以下の年少人口は、少子化の影響により3,400人（平成7年比：約600人減）に減少し、町内人口に占める割合も14.8%に低下すると見込まれます。

15歳から64歳までの生産年齢人口は15,100人（平成7年比：約1,000人増）に増加しますが、町内人口に占める割合は65.7%に低下すると見込まれます。

65歳以上の高齢人口は、高齢化の影響により、年少人口を上回る4,500人（平成7年比：約2,000人増）に増加し、町内人口に占める割合も19.6%に上昇すると見込まれます。

世帯数は、単独世帯や高齢世帯の増加などにより1世帯当たり人員の低下が進むため、人口の伸びを上回る勢いで増加し、平成22年には7,300世帯（平成7年比：約1,500世帯増）になると見込まれます。

推計人口



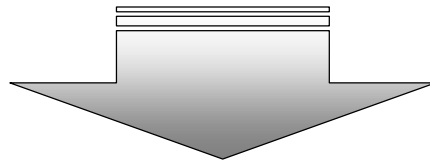
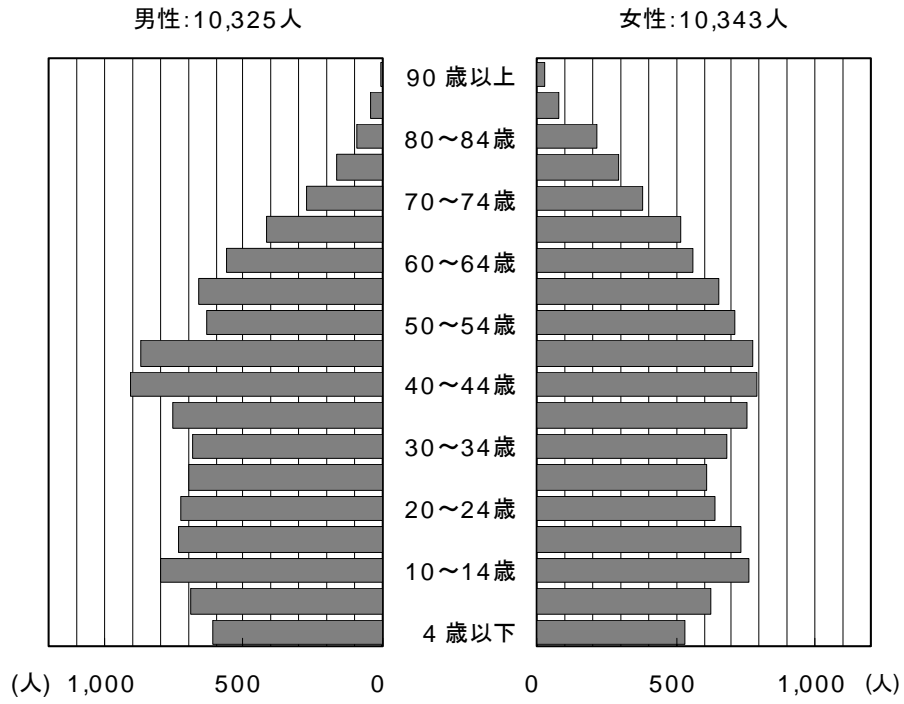
推計年齢3階層別人口及び世帯数

単位：人、世帯

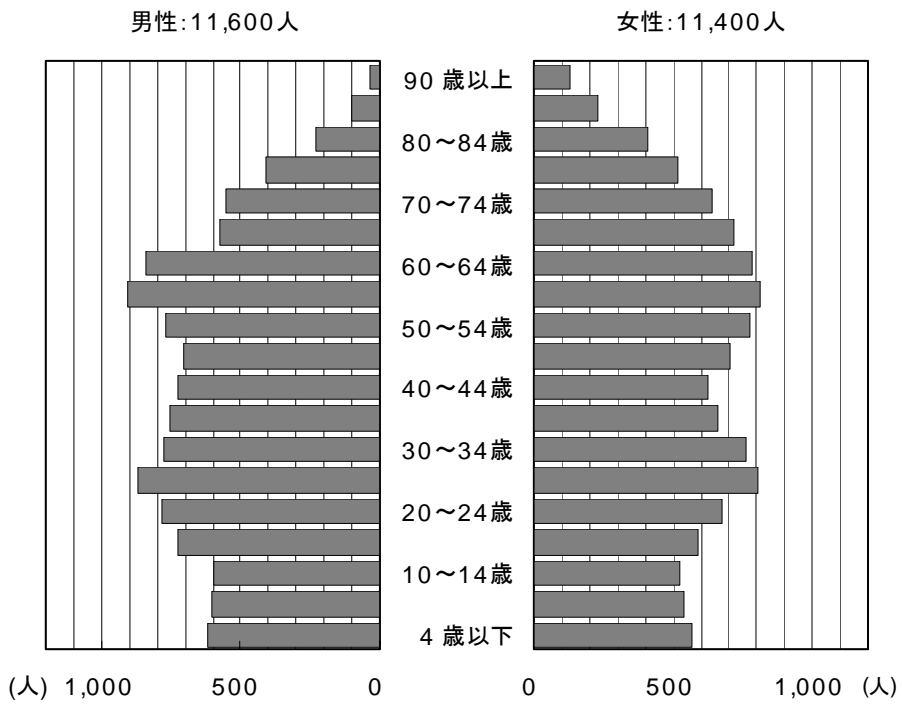
	平成7年(1995年)	平成12年(2000年)	平成17年(2005年)	平成22年(2010年)
人口	20,668	21,500	22,300	23,000
14歳以下	4,017 (19.4%)	3,600 (16.7%)	3,400 (15.2%)	3,400 (14.8%)
15～64歳	14,134 (68.4%)	14,700 (68.4%)	15,000 (67.3%)	15,100 (65.7%)
65歳以上	2,517 (12.2%)	3,200 (14.9%)	3,900 (17.5%)	4,500 (19.6%)
世帯数	5,846	6,300	6,800	7,300

推計人口構成

【平成 7 年】



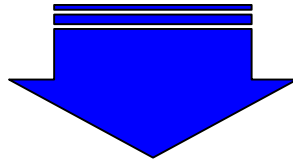
【平成 22 年】



七ヶ浜町長期総合計画基本構想(案)策定フロー

時 代 潮 流

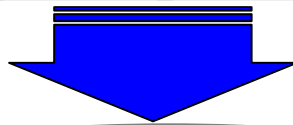
人と自然の 共生時代	価値観、生活 様式の多様化	人口減少・ 高齢化時代	生涯学習の 時代	国際化・高度 情報化時代	産業構造の変 換大競争時代	地方分権と住 民主体の時代
---------------	------------------	----------------	-------------	-----------------	------------------	------------------



まちづくりの主要課題

住民アンケートや地区懇談会・ビジョン懇談会により七ヶ浜町の課題が浮き彫りになりました。

七ヶ浜らしい 自然環境の保全	生涯学習の 充実	保健・医療・福祉 サービスの向上	次代を支える 産業の活性化	地域活動の 活性化	生活の利便性 の確保	行政情報の提供と 参加機会の拡大	効率的な 行財政運営
-------------------	-------------	---------------------	------------------	--------------	---------------	---------------------	---------------



基本理念

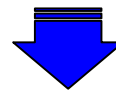
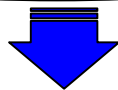
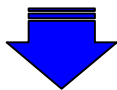
心ゆたかなまち

住民と行政のパートナーシップを強め、次の3つの視点から、新しい時代の七ヶ浜町の心ゆたかなまちづくりを進めていきます。

自然との共生
(環境)

創造性豊かな人間の育成
(教育)

ゆとりある地域社会づくり
(福祉)



七ヶ浜の将来像

— うみ、ひと、まち 七ヶ浜 —

①自然とともに・・・	②ひとにやさしい・・・	③自分らしく・・・	④みんなでつくる・・・	⑤安心してこちよい・・・
------------	-------------	-----------	-------------	--------------